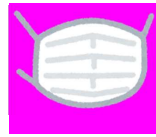


2021年9月7日

江戸取図書館便り 9月2号



— 新着本紹介 —



はくろ 「白露」(2021年9月7~22日)・初候「草露白」(7~11日)

・「ツユクサは、朝咲いて、その日のうちにしぼむ一日花です。朝露のように儚いことから露草と命名。花の青い絞り汁が布や紙に着きやすいことから、着き草(月草)。青い染料は雨で色落ちしやすい。花言葉は、懐かしい関係・敬われぬ愛」(『すてきな花言葉と花の図鑑』143頁)・「明治の文豪、徳富蘆花(とくとみろか)はその美しさを「露草は花では無い。色に出た露の精である」と表現しています」「月草の 移ろひやすく 思へかも 我が思ふ人の 言も告げ来ぬ (大伴坂上郎女(おおとものさかのうえのいらつめ) 万葉集 巻四 583)」(『日本の四季、二十四節気、七十二候』97頁)・「白露⇒草露白⇒露草を連想します。月草のは、ウツロウの枕詞。歌人は、万葉集に女性最多の84首収録」

* 秋の夜は、ミステリや SF 小説はいかがですか？

・<アガサ・クリスティー>から、『オリエント急行の殺人』・・・ミステリの女王アガサ・クリスティーの代表作の一つ。豪華列車オリエント急行で発生した老富豪殺人事件。偶然乗り合わせた名探偵ポワロが捜査を進めると、国籍も身分も様々な乗客たちには、全員完璧なアリバイが。果たしてポワロは事件を解決できるのか？真相に驚かない人はいない、不朽の名作。

・<エラリー・クイーン>から、『ローマ帽子の秘密』・・・ブロードウェイのローマ劇場で異常事態が発生。颯爽と現れたのは名捜査官リチャード・クイーン警視そして、その息子天才探偵エラリー・クイーン。後に名作『Xの悲劇』や『Yの悲劇』を発表する作家(実は著者はいとこ同士の合作ペンネーム)エラリー・クイーンの秀作ミステリで、デビュー作。国名シリーズ(題名に国名が入る)の1冊です。



・「知りたい！サイエンス」は、雑学本より奥が深く入門書より易しいをコンセプトにしたシリーズ。
・「講談社学術文庫」の「興亡の世界史」全21巻と「中国の歴史」全12巻が、そろいました。

